

# 創成高校太鼓部 11年連続で

## 全国の舞台へ！

札幌創成高等学校3年

### 田中健太郎さん

現代を生きる



中央の後ろ姿が、全国大会で演奏する田中さん



令和元年8月に佐賀県武雄市で開催された「全国高等学校郷土研究発表大会」に、11年連続で出場した札幌創成高等学校太鼓部。同部の一員として大会に臨み、また、高校の青春時代の大半を太鼓にかけた田中健太郎さん（当別中出身）にお話を聞きました。

#### 太鼓を始めたきっかけ

当別中では3年間、剣道部で頑張りました。創成高校でも剣道を続けようと思っていましたが、いざ高校に入学して部活紹介で太鼓部の演奏を観た時、太鼓の迫力と演奏の格好良さに感動し、一目ぼれして入部しました。その時から「演奏は全国レベル」と聞いていたので、部活動はきついものと思っていました。大会前などはきつい練習もありましたが、何よりも顧問の先生をはじめ先輩・部員など、人に恵まれ、引退まで楽しく部活動をすることができました。

#### 横太鼓から大太鼓へ

1年半ほどは「横太鼓」を担当していましたが、2年生の秋に「大太鼓（ソロ演奏用としても用いられ、打ちこなすには高い技術と表現力、持久力が求められる）」を担当することになりました。11月の全道大会を突破し、翌年の全国大会に向けて動き出す時期です。3年生の先輩が引退し、後輩に教える時期に、自分が新しいパートを担当することになり、人一倍努力をしました。太鼓の練習に大切な『口唱歌（ドコドコ、ドンウンウンと口で言ってリズムを覚えるもの）』をとにかく練習しました。また、大太鼓は舞台の中央で後ろ姿を観客に見せながら、大きな動きでパフォーマンスをするため、部活後にはジムに通い体づくりにも励みました。部活引退後の現在は、以前からやっていた空手とキックボクシングをやっています。

#### 太鼓の魅力は？

達成感です。一番感じたのは、3年生の夏の全国大会です。どの出場校もオリジナル曲を作って臨みますが、2年生の秋からの創成高の曲は「ニシン漁」をテーマにしたもので、和太鼓独特の伝統的なリズムを中心に、初めて歌も入れました。編曲と練習を仲間と重ねた全国大会本番では、迫力と一体感がある最高の演奏を披露できました。本当に良い仲間恵まれたので、引退時のスピーチでは思わず涙がこぼれ、自分でも驚きました。

太鼓部で得たことは、「人との出会いと人に教える楽しさ」と話してくれた田中さん。高校卒業後はスポーツトレーナーを目指すそうで、ストイックに頑張る姿が目に見えます。ご活躍を楽しみにしています。

（令和元年12月6日取材）